

東京大学東日本大震災復興支援の10年

復興支援活動と未来

東京大学は、10年間にわたる東日本大震災の復興支援活動を通して、被災地の皆さまと多くの体験を共有し、数々の気づきを得て、知を蓄積してきました。

本シンポジウムでは、東京大学の復興支援活動の振り返りを行うとともに、活動を通して培った知をどのように未来に繋げていくか、登壇者の方々と共に考えます。

日時

2021年3月25日[木]
10:00-12:00

会場

オンラインにて開催

Zoomウェビナーによる開催

参加方法

申込が必須です。

右QRコードよりお申し込みください。

お申し込みが完了すると、ご登録の

メールアドレスにご案内メールが届きます。

当日はそのメールに記載されたURLからシンポジウムをご視聴ください。



東京大学
救援・復興支援室
遠野分室

お問い合わせ: 東京大学 東日本大震災復興支援室
E-mail kyuenfukkou.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

主催: 東京大学 東日本大震災復興支援室、社会連携本部
後援(五十音順): 大槌町、釜石市、遠野市

プログラム

司会 津田 敦 東京大学 副学長、復興支援室長、社会連携本部副本部長

開会挨拶

五神 真 東京大学 総長

濱田 純一 国土緑化推進機構 理事長、東京大学 前総長

ビデオ上映

パネルディスカッション

モデレーター 津田 敦 東京大学 副学長、復興支援室長、社会連携本部副本部長

濱田 純一 国土緑化推進機構 理事長、東京大学 前総長

河村 知彦 東京大学 大気海洋研究所 所長

玄田 有史 東京大学 社会科学研究所 教授

平野 公三 岩手県 上閉伊郡 大槌町 町長

野田 武則 岩手県 釜石市 市長

本田 敏秋 岩手県 遠野市 市長

大月 敏雄 東京大学 大学院工学系研究科 教授

村田 幸久 東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授

秋光 信佳 東京大学 アイソトープ総合センター 教授

中村 彬良 東京大学 卒業生、元大槌町役場職員

閉会挨拶

藤井 輝夫 東京大学 理事・副学長、社会連携本部長

ビデオ上映

東日本大震災の発生後、間もなく設置された「救援・復興支援室」(のちに「復興支援室」に改組)の活動を中心に、東京大学における10年間の復興支援活動を写真と映像で振り返ります。

パネルディスカッション

東京大学の復興支援活動に深く携わった方々を登壇者としてお招きし、パネルディスカッションを行います。復興に対する思いや復興支援活動の思い出を語っていただき、震災復興を通して得た気づきや学びから、より良い未来のかたちを探ります。



津田 敦

東京大学 副学長、復興支援室長、社会連携本部副本部長
東京大学大気海洋研究所教授・前所長。生物海洋学、特にプランクトンの生態学を専門とし、大槌町を学生の頃から研究のフィールドとしてきた。震災後は、「東北マリンサイエンス拠点形成事業」において、生態系のモニタリングを行ってきた。



玄田 有史

東京大学 社会科学研究所 教授
社会科学研究所の全所的プロジェクトとして開始した「希望学」の責任者として、震災前の2006年から実地調査を通じ、釜石市の方々との交流を続けてきた。震災後も同地での活動を続けており、震災後に発足した全所的プロジェクト「危機対応学」においても同市と連携を行っている。



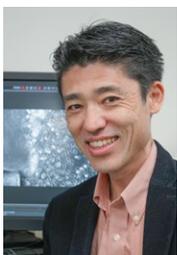
野田 武則

岩手県 釜石市 市長
釜石市と東京大学は、社会科学研究所の「希望学」のフィールドワークの現場として震災前から連携を持っていた。震災後も同地で希望学の活動が継続されると共に、「釜石カレッジ」などの新しい取組みが行われた。現在は、「危機対応研究センター」を同研究所と共同で運営している。



大月 敏雄

東京大学 大学院工学系研究科 教授
建築学を専門とし、建築計画学、建築設計、住宅・住宅地計画、住宅政策、まちづくり等の面から復興支援活動を行う。釜石市・遠野市の仮設住宅支援や陸前高田市のサービス付き高齢者住宅「ほっこり家」の設計等に従事。大槌町・福島県双葉町・大熊町でも同様の活動を行っている。



秋光 信佳

東京大学 アイソトープ総合センター 教授
福島第一原子力発電所事故の直後から、浜通り地区(南相馬市、浪江町、楢葉町、広野町等)で放射線測定・除染などを実施してきた。また「福島イノベーション・コースト構想推進事業・復興知事業」の事業責任者として、他分野の研究者と連携しつつ、復興支援活動を行っている。



五神 真
東京大学 総長



藤井 輝夫
東京大学 理事・副学長、社会連携本部長



濱田 純一

国土緑化推進機構 理事長、東京大学 前総長
東日本大震災発生時に東京大学総長に在任し、東京大学における震災対応の陣頭指揮を執った。また、震災後まもなく「救援・復興支援室」を設置するなど、復興支援活動に尽力した。



河村 知彦

東京大学 大気海洋研究所 所長
震災後、大槌町の国際沿岸海洋研究センターに新設された「生物資源再生分野」に赴任し、海洋生態系に対する津波の影響についての研究を統括。その後、同センター長となり、センターの復旧に尽力、玄田教授らと共に「海と希望の学校 in 三陸」を立ち上げる。



平野 公三

岩手県 上閉伊郡 大槌町 町長
大槌町と東京大学は、町内赤浜地区に国際沿岸海洋研究センターの前身施設が設置されてから50年近い繋がりがある。震災後は復興に関する連携協定を締結。赤浜地区内でのセンター移転再建に合意した。センターの再建後は町民に開かれた施設として地域との連携を強めている。



本田 敏秋

岩手県 遠野市 市長
遠野市は、沿岸部から少し内陸に入ったその立地から、東日本大震災における岩手県三陸沿岸被災地の後方支援活動を積極的に行っていた。その過程で東京大学との間に縁が生まれ、救援・復興支援室遠野分室等、東京大学の復興支援拠点を設置させていただくこととなった。



村田 幸久

東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授
放射線動物科学研究所所属。福島県において、福島第一原子力発電所事故により旧警戒区域に取り残されてしまった家畜(ウシ)を対象に、低線量放射線が家畜の健康に与える影響について、長期にわたるモニタリングを実施し、調査している。



中村 彬良

東京大学 卒業生、元大槌町役場職員
東京大学農学生命科学研究科修了。修了後の2013年4月からは大槌町職員となり、産官学連携、商業、農業関連など、数々の業務に従事。震災犠牲者の人柄や功績などを記録として残す「生きた証プロジェクト」や「東日本大震災津波物故者納骨堂」等の震災関連事業も担当した。